

授業科目	哲学						
担当教員	倉田隆						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	1	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M1010010
免許資格 関連事項							

授業の概要	<p>[授業の目的・ねらい] 人間と世界との関わり方という問題を、「私が世界について知る」とはどういうことか、そもそも世界について知ることは可能なのか、という問題として探究することによって、哲学的に思索する姿勢を養う。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 「知るとはどういうことか」という問題を検討することにより、当たり前だと思っていることに疑問の眼差しを向けるという哲学の原点にある姿勢を養うことを目標とする。講義では、この「知る」ということの本質について、日常的な出来事を例に取り上げながらできるだけ平明に解説し、ある知識が「正しい」と言えるための基準を検討する。知識に関する哲学史上の理論もいくつか簡単に紹介しながら、なるべく身近な具体例に関連させて「知る」ということの意味を学生一人ひとりに考えさせる。</p>
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「知る」という極めて日常的な営みを、哲学的な問題として論理的に分析することができる。 2. 身近な事柄を哲学的に論じることの意味を理解できる。 3. 当然のことと見なされてきた事柄に、疑問の目を向ける姿勢を身につける。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス 第2回 知識とは何か1：知識と世界 第3回 知識とは何か2：像と記憶 第4回 知識とは何か3：信念(1) 第5回 知識とは何か4：信念(2) 第6回 知識の2つのあり方1：知識の標準的な定義 第7回 知識の2つの在り方2：ア・プリオリとア・ポステリオリ(1) 第8回 知識の2つの在り方3：ア・プリオリとア・ポステリオリ(2) 第9回 ア・プリオリな知識の「正しさ」1：プラトニズム 第10回 ア・プリオリな知識の「正しさ」2：心理主義 第11回 ア・プリオリな知識の「正しさ」3：規約主義 第12回 ア・ポステリオリな知識の「正しさ」1：素朴实在論 第13回 ア・ポステリオリな知識の「正しさ」2：表象主義的实在論 第14回 ア・ポステリオリな知識の「正しさ」3：観念論 第15回 ア・ポステリオリな知識の「正しさ」4：科学的实在論</p>
テキスト	テキストは使用しない。
参考文献	『現代哲学』 門脇俊介(著) 産業図書 『哲学の謎』 野矢茂樹(著) 講談社
評価方法	定期試験(100%)
自己学習に関する指針	講義内容を要約したプリントを配付して、それに沿って講義を進めていきますが、プリントには何箇所か空白があります。講義を聴きながら空白を埋め、授業後に通読するなどの復習をしてください。
履修上の指導・留意点	受講者は前から詰めて着席してください。なお、参考文献の欄で紹介した文献は、必読図書というものではありません。授業で学んだことをさらに深めたい人のために紹介しました。

授業科目	心理学						
担当教員	飯塚由美						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	1	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M1010020
免許資格 関連事項							

授業の概要	<p>[授業の目的・ねらい] 「心理学」について学び、人の心理や行動の実証的研究の基礎を理解し、人間や日常社会についての洞察力や考える姿勢を養うことを目的とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 個人の心の特性と社会における人間行動を理解し、その基本理論や知識の修得を目標とする。(1)多様な心理学の分野とその歴史や基本理念の理解(2)感覚・知覚、学習、記憶、感情・動機づけ、発達、臨床などの分野(3)性格・パーソナリティ、社会と人間行動・心理、また、地域や社会との関わりなど応用的な心理学の分野についての基礎理論を修得する。自分たちが日常的に考え、行ったりしていることを、こころの科学として実証的に考察した主要な研究や実験を紹介し、人間への理解を深める。</p>
授業の到達目標	(1)「心理学」に関する基本的な理論・方法について理解し、わかりやすく説明することができる。(2)心理学の基礎知識(専門的な用語や概念等)を習得した上で、自ら考え、人間理解や社会での応用実践の方法を探る視点を持つことができる。
授業計画	<p>第1回 心理学とは(オリエンテーション)</p> <p>第2回 感覚・知覚(1) 感覚器官、図と地、反転図形</p> <p>第3回 感覚・知覚(2) 錯視、奥行き知覚など</p> <p>第4回 学習 古典的学習、オペラント学習、社会的学習</p> <p>第5回 記憶 感覚記憶、短期記憶、長期記憶、自伝的記憶</p> <p>第6回 感情・動機づけ 感情、帰属、欲求</p> <p>第7回 発達 ピアジェの理論、認知発達、分離不安など</p> <p>第8回 臨床 フロイトとユングの理論、心理療法など</p> <p>第9回 性格・パーソナリティ(1) 基礎理論</p> <p>第10回 性格・パーソナリティ(2) 評価と検査法</p> <p>第11回 社会と応用 社会問題と人間行動</p> <p>第12回 自己と対人の心理(1) 社会的認知、対人魅力、対人関係</p> <p>第13回 自己と対人の心理(2) コミュニケーション、社会的スキル、援助</p> <p>第14回 社会と集団・組織の心理 集団の特性、社会的影響過程</p> <p>第15回 応用の心理学と最新の心理学動向</p>
テキスト	『心理学概論－基礎から臨床心理学まで－』 第5版 宇津木成介・橋本由里(編) ふうろう出版 必要に応じ、資料やプリントを配布する。
参考文献	授業内容に合わせて講義内で適宜紹介します。
評価方法	成績は、授業内で実施する小テスト(70%)や課題(20%)、質問やコメントなどの授業への参加姿勢(10%)で評価する。
自己学習に関する指針	授業前にテキストの該当箇所を読んでおくこと。
履修上の指導・留意点	欠席した場合、配布資料は研究室前ボックス内にあるので、次の授業前までに入手し、事前に見ておくこと。

授業科目	音楽						
担当教員	山川智馨						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	2	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M1010030
免許資格 関連事項							

授業の概要	<p>[授業の目的・ねらい] 授業の目的・ねらい：音楽芸術の受容に関する主体的な思考力を培う</p> <p>[授業全体の内容の概要] 音楽を聴く、音楽を楽しむことは日常的な行為であり、音楽は、身近な存在として位置づけられているが、私たちは音楽の何に気持ちが揺さぶられ、音楽の何に魅力を感じているのかを問い直す必要がある。この科目では、音楽と情動の関係性に触れながら、自身の音楽の聴き方について考えていくことを目標とする。また様々なジャンルやスタイルの音楽鑑賞をし、音楽の新しい魅力の発見につなげることを目的とする。音楽を聞き流すのではなく、改めて「聴く」ことの重要性を考える。</p>
授業の到達目標	<p>(1) さまざまな音楽の魅力を発見し、その音楽の芸術的な価値と社会的な意味について、主体的に思考できる</p> <p>(2) 文学と音楽、美術と音楽、さらには人間の営みと音楽といった、他の分野と音楽がどのように融合され表現されるのかについて、音楽的要素を意識しながら聴くことができる</p> <p>(3) 作曲者の視点を通して、音楽の可能性や音楽の新しい表現について知る</p>
授業計画	<p>第1回 ガイダンス：物語から聴こえてくる音たち～作曲家の仕事について考える</p> <p>第2回 音楽の起源：呪術と音楽～ケチャ、春の祭典</p> <p>第3回 神話と音楽：ギリシア神話、古事記、ホピ族（アメリカインディアン）～シュリンクス、HOPI</p> <p>第4回 物語と音楽1：宮沢賢治と音楽①音の絵本～よだかの星、注文の多い料理店</p> <p>第5回 物語と音楽2：宮沢賢治と音楽②鳥の劇場との出会い～セロ弾きのゴーシュ</p> <p>第6回 物語と音楽3：宮沢賢治と音楽③～農民芸術概論の理想と現実、宮沢賢治の作曲と音楽活動</p> <p>第7回 物語と音楽4：音楽と舞踊～バレエ・リュス、火の鳥、兵士の物語、歌の祭り</p> <p>第8回 物語と音楽5：オペラ①オペラの誕生～バロック音楽、インテルメディオ、オルフェオ</p> <p>第9回 物語と音楽6：オペラ②モーツァルト「フィガロの結婚」第1幕</p> <p>第10回 物語と音楽7：オペラ③モーツァルト「フィガロの結婚」第2幕</p> <p>第11回 物語と音楽8：オペラ④モーツァルト「フィガロの結婚」第3幕、第4幕</p> <p>第12回 物語と音楽9：オペラ⑤総合芸術としてのオペラ～演出、美術、衣装、照明、合唱、オーケストラ</p> <p>第13回 物語と音楽10：オペラ⑥オリジナルオペラの夢～ポラーノの広場、窓、魔法のカクテル</p> <p>第14回 音楽と現代：戦争と音楽、平和と音楽～海ゆかば、ワルシャワの生き残り、広島が言わせる言葉</p> <p>第15回 まとめ：これまでの授業をふりかえり、音楽を主体的に聴くことの重要性について考える 定期試験</p>
テキスト	授業毎にプリント資料を配布
参考文献	久保田慶一、ほか『はじめての音楽史 増補改訂版—古代ギリシアの音楽から日本の現代音楽まで』音楽之友社、2009.
評価方法	定期試験（レポート）（50%）、振り返りシート（50%）
自己学習に関する指針	授業で扱った作品はインターネット等を活用して復習してください。
履修上の指導・留意点	毎回の授業で質問や感想などについての振り返りシートを記入します。

授業科目	文学						
担当教員	武田信明						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	2	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M1010040
免許資格 関連事項	<p>○中学校教諭(国語)一種免許状《教科に関する科目》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国文学(国文学史を含む。) <p>○高等学校教諭(国語)一種免許状《教科に関する科目》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国文学(国文学史を含む。) 						

授業の概要	<p>小説作品を読解するための考え方を基礎から教授する授業である。授業は、小説作品を具体的に読み進めていくことを中心とする。小説のあらすじや一部を読むのではなく、作品全体を通読することで初めて理解できることがたくさんあるからである。さらに、時代やジャンルも異なる多様な小説作品を選んでいるので、文学作品に対する幅広い知識と読み方が習得できるはずである。また2回の記述試験(レポート)によって、その力の修得の程度を問う。</p>
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 文学作品についてさまざまな観点から読み解くことができる。 2) 対象とする作品について、作家や文学史的知識を理解している。 3) 作品について読み取った内容を、論理的な文書で記述することができる。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス(授業の進め方・授業の目的と評価方法)</p> <p>第2回 ジブリから文学へ1 ー二項関係と反復</p> <p>第3回 ジブリから文学へ2 ー空間を読む</p> <p>第4回 江戸川乱歩概説</p> <p>第5回 「屋根裏の散歩者」ー空間という観点</p> <p>第6回 「屋根裏の散歩者」ー近代的都市の形成</p> <p>第7回 吉本ばなな概説</p> <p>第8回 「キッチン」ー台所の文化史</p> <p>第9回 「キッチン」ーモチーフという概念</p> <p>第10回 「キッチン」ー死と再生</p> <p>第11回 宮沢賢治概説</p> <p>第12回 「風の又三郎」ー異稿問題</p> <p>第13回 「風の又三郎」ー子どもと異人</p> <p>第14回 「風の又三郎」ー四大元素の空間</p> <p>第15回 「キッチン」「風の又三郎」総括</p>
テキスト	<p>・「風の又三郎」「キッチン」(角川文庫)を基本テキストとする。</p>
参考文献	<p>・授業時に作品読解のための参考プリントを毎回配布する。</p>
評価方法	<p>授業時のコメントシート(2点×10)、「中間試験」(配点40)と「授業終了後のまとめ試験」(配点40点)の合計で評価する。</p>
自己学習に関する指針	<p>・該当の小説作品をあらかじめ読んでおく必要がある。</p>
履修上の指導・留意点	<p>・特になし</p>

授業科目	読書と豊かな人間性						
担当教員	天野佳代子						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	2	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M1010050
免許資格 関連事項	○司書教諭免許状						

授業の概要	<p>児童・生徒にとって読書とは本を楽しく読むばかりではなく、情報社会の中で必要な情報を取捨選択するための情報を読みとるための手段でもある。そのためには読書センター、情報センターの機能を持つ学校図書館の読書教育を理解し、教育課程の展開に寄与するための読書活動も考えていかなければならない。本講座では、学校図書館を活用したさまざまな読書活動の意義と目的について考え、児童・生徒の読書への関心や読む力を高めるためのさまざまなスキルを習得する。読書が育む豊かな人間性の育成とはどのようなことなのかディスカッションを通して考察する。</p>
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・読書の意義と発達段階に応じた読書のあり方や指導方法の重要性を理解する。 ・豊かな人間性を育成するための読書材を知り、読書指導、教育課程の展開に導くための読書指導についても考える。 ・学校教育の中での読書指導のあり方を考え、司書教諭としての役割を考察する。 ・読書活動における司書教諭と学校図書館司書の協働について考える。
授業計画	<p>第1回 読書の意義と目的 第2回 読書指導と読書教育 第3回 子どもの読書推進に関する法と施策 第4回 子どもの読書と現状 第5回 子どもの成長と読書 第6回 学校図書館の読書材 第7回 学校図書館の読書環境の整備と利用 第8回 教科、特別活動における読書 第9回 特別支援の必要な児童・生徒の読書 第10回 学校図書館における司書と司書教諭の役割と協働 第11回 読書へ導く方法① 読みきかせ 第12回 読書へ導く方法② ブックトーク 第13回 読書へ導く方法③ 読書へのアニメーション 第14回 読書へ導く方法④ リテラチャーサークル 第15回 家庭、地域、公共図書館との連携と協力 まとめ 講義のまとめとテスト 定期試験</p>
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・配布資料
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・新版 『読書と豊かな人間性』 朝比奈大作 著、米谷茂則 著 放送大学教育振興会 2015年 ・JLA 学校図書館実践シリーズ『学校図書館の教育力を生かす 学校を変える可能性』 塩見昇 2016年 ・『鍛えよう！読むチカラ 学校図書館で育てる25の方法』 桑田てるみ監修 「読むチカラ」プロジェクト編著 明治書院 2012年 ・『読書へのアニメーション-75の作戦』 サルト, マリア・モンセラット【著】/宇野和美【訳】/新田恵子【監修】 柏書房 2001年 ・シリーズ・ワークショップで学ぶ『読書家の時間: 自立した読み手を育てる教え方・学び方』【実践編】プロジェクト・ワークショップ(編) 新評論 2014年
評価方法	<p>授業への積極的な参加姿勢を評価する(出席状況、授業態度、グループワーク、本の紹介、レポートの提出など) 平常点(80)・試験(20%)</p>
自己学習に関する指針	<p>「おはなしレストラン」や公共図書館、書店の児童書コーナーなどの図書や雑誌にふれておく。</p>

履修上の 指導・留意点	・『夏の庭—The Friends』湯本香樹実(著)徳間書店2001年を読んでおく。
----------------	--

授業科目	市民社会と図書館						
担当教員	小南理恵						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	1	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M1010060
免許資格 関連事項	○司書資格						

授業の概要	市民社会における知識情報の蓄積、保存、流通の観点から、民主主義を下支えする社会的なシステムとしての図書館の機能や社会における意義や役割について理解することを目的とする。「図書館の歴史と現状」「図書館の構成要素」「民主主義と図書館」「知識基盤社会と図書館」「生涯学習社会と図書館」「公共図書館の成立と発展」「館種別図書館と利用者のニーズ」「図書館職員の役割と資格」「類縁機関との関係」「知的自由と図書館」「今後の課題と展望」等について解説する。
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 市民社会における図書館の機能や役割について基礎的な知識を習得する。 「図書館とは何か」という問いに対して、自分なりの解を導き出す。 「図書館とは何か」について自分の言葉で説明できるようになる。
授業計画	<p>第1回 「図書館」を学ぶとは</p> <p>第2回 図書館の基礎①：図書館の構成要素と機能</p> <p>第3回 図書館の基礎②：図書館の制度（憲法、教育基本法、社会教育法、図書館法）</p> <p>第4回 図書館の社会的意義①：民主主義と図書館</p> <p>第5回 図書館の社会的意義②：知識基盤社会と図書館</p> <p>第6回 図書館の社会的意義③：生涯学習社会と図書館</p> <p>第7回 図書館の社会的意義④：知的創造と図書館</p> <p>第8回 公共図書館の成立と展開</p> <p>第9回 日本の公共図書館①：明治～戦前の図書館</p> <p>第10回 日本の公共図書館②：戦後の図書館</p> <p>第11回 図書館の種類と利用者①（国立図書館、公共図書館）</p> <p>第12回 図書館の種類と利用者②（大学図書館、学校図書館、専門図書館）</p> <p>第13回 知的自由と図書館、図書館の自由</p> <p>第14回 図書館員とライブラリアンシップ</p> <p>第15回 図書館の課題と展望</p>
テキスト	なし
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> 二村健『図書館の基礎と展望 第二版』学文社、2019年 1,900円+税 『図書館情報学用語辞典 第5版』丸善、2020年 3,800円+税 『図書館ハンドブック 第6版補訂2版』日本図書館協会、2016年 5,500+税
評価方法	授業への参加（授業コメント、授業内課題）50%、レポート50%で評価します。
自己学習に関する指針	<ul style="list-style-type: none"> 本学の図書館をはじめとして様々な図書館を積極的に訪れ、図書館に親しむこと 日頃から図書館に関するニュースに注目すること
履修上の指導・留意点	司書資格を取得するために必要な科目です。

授業科目	社会学						
担当教員	片岡佳美						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	1	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M1010070
免許資格 関連事項							

授業の概要	<p>[授業の目的・ねらい] 私たちが日常生活を営んでいる、この社会について知るために、社会学はさまざまな見方を示してきている。この授業では、そうした「社会学の見方」について「家族」「地域」を切り口に学ぶことを目的とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 社会学をはじめて学ぶ人に、社会学とはどのような学問かを理解してもらうために、そのユニークな視点について講義する。家族や学校、地域といった身近なトピックについて、これまで社会学者たちが論じてきたことをやさしく説く。</p>
授業の到達目標	日常生活、社会現象について、社会学的な視点から見つめることができ、説明することができる。
授業計画	<p>第1回 イン트로ダクション—問題の所在— 第2回 家族1—いま家族に何が起きているか— 第3回 家族2—近代家族の成立— 第4回 家族3—近代家族の揺らぎ— 第5回 家族4—ライフスタイルとしての家族— 第6回 家族5—民主的な家族という理想— 第7回 学校・教育制度1—学校という制度— 第8回 学校・教育制度2—選択の自由と自己責任— 第9回 学校・教育制度3—子どもに関する問題と教育— 第10回 学校・教育制度4—「心の教育」— 第11回 地域コミュニティの変容1—産業化・都市化の影響— 第12回 地域コミュニティの変容2—一心同体のつながりと「契約」のつながり— 第13回 地域コミュニティの変容3—「地域での助け合い」は可能か— 第14回 第二の近代 第15回 まとめ 定期試験</p>
テキスト	
参考文献	参考文献は、アンソニー・ギデンズ『親密性の変容』而立書房ほか（他の文献については授業中に提示する）。
評価方法	中間レポート（30%）、期末試験（70%）
自己学習に関する指針	日頃から、新聞記事やテレビのニュースなどで、家族、学校、地域コミュニティの最近の動向についてチェックしておこう。国や地方自治体の家族や地域コミュニティに関する政策についても、インターネットなどで見ておくとよい。
履修上の指導・留意点	<p>質問などあれば、email (kataoka@soc.shimane-u.ac.jp) に送ってください。</p> <p>なお、本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、民間の研究所に主任研究員として勤務していた経験を活かしてより具体的、実践的な授業を展開する。</p>

授業科目	現代経済学						
担当教員	大塚茂						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	1	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M1010080
免許資格 関連事項							

授業の概要	<p>[授業の目的・ねらい] 現代の経済状況を理解するために必要な基礎的知識を蓄えながら、経済諸問題を自らの問題として根本から問い直す分析力を身につける。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 日本及び世界の国々が直面する具体的な経済の諸問題の考察を通して、現代の経済の基本的な特徴と趨勢を理解するとともに、現代に生きる私たちに突きつけられている歴史的課題とその解決方策に対する洞察力を養うことを目標とする。同時に、基礎的な経済の仕組みと経済用語についての知識を深めていく。授業で取り上げるテーマは、「経済循環」「景気変動」「株式会社の特質」「会社の変容」「格差問題」「雇用問題」「資本主義の構造」「物価と価格」「グローバリゼーション」「財政の役割」「税の原理」「税制改革」などである。</p>
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 主な経済ニュースが概ね理解できるようになる。 2. さまざまな経済問題について関心と疑問が持てるようになる。 3. 主な経済政策について、その当否を判断できるようになる。
授業計画	<p>第1回 価格と物価 第2回 経済循環 第3回 景気変動 第4回 株式会社 第5回 会社の変容 第6回 格差と貧困 第7回 雇用問題 第8回 資本主義 第9回 グローバリゼーション 第10回 規制と自由 第11回 財政の役割 第12回 所得税 第13回 消費税 第14回 税の原理 第15回 まとめ(現代の課題) 定期試験</p>
テキスト	<p>テキストは使用しません。毎回、プリントを配布します。 プリントは試験のときに持ち込み可としますので大切に保管してください。</p>
参考文献	<p>神野直彦『「分かち合い」の経済学』岩波新書、2010年</p>
評価方法	<p>定期試験(100%)</p>
自己学習に関する指針	<p>授業で配布したプリントは、次の授業までにもう一度目を通すこと。</p>
履修上の指導・留意点	<p>疑問に思ったことは積極的に質問してください。 逆に、質問されたら積極的に答えてください。</p>

授業科目	生涯学習概論						
担当教員	仲野寛						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	2	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M1010090
免許資格 関連事項							

授業の概要	生涯学習及び社会教育の理念と意義及び特質を理解し、生涯学習社会における家庭教育・学校教育・社会教育の役割と連携、生涯各期の学習課題と学習ニーズ、現代的課題と社会の要請、生涯学習支援の教育システムと学習成果の評価と活用、生涯学習・社会教育施設等の役割などについて理解する。
授業の到達目標	①生涯学習の理念と意義、社会教育の意義と役割及び特質を理解する。 ②生涯学習支援の教育システムと学習成果の評価と活用を理解する。 ③社会教育施設（公民館、図書館、博物館等）と指導者（社会教育主事、公民館主事、司書、学芸員等）の役割や職務を理解し、説明できる基礎的能力を養う。
授業計画	1. 授業のガイダンス。生涯学習の理念と意義 2. 諸外国における生涯学習の歴史と展開、ユネスコ、OECDの生涯教育論等 3. 我が国における生涯学習の歴史と展開、教育改革と生涯学習社会の構築 4. 伝統的な教育システムからの転換と開かれた学校、近年の教育施策の動向 5. 社会教育や学校教育、民間教育施設、スポーツ施設、地域の集会施設等の役割 6. 図書館、公民館、博物館、青少年教育施設等の社会教育施設の機能と役割 7. 司書、社会教育主事、公民館主事、学芸員等の社会教育指導者の役割と職務 8. 生涯各期の学習課題の学習の必要性、及び地域の課題や現代的課題等の理解 9. 地域の資源（ひと、もの、こと）や地域の教育力を活用した生涯学習支援 10. 個人学習、集合学習の方法、学習機会と提供方法、学習評価等の解説 11. 生涯学習の振興と社会教育行政、生涯学習振興行政の役割 12. 生涯学習振興計画と社会教育事業計画の意義、事業評価とPDCAの意義 13. 学習プログラムの種類と特徴、構造、企画・立案する際の視点と手順、評価の観点 14. 学習成果の評価と活用、地域づくり、ボランティア活動等への展開 15. 学習成果と自己実現、講義のまとめ
テキスト	テキストは使用しない。講義に関する資料を適宜配布する。
参考文献	授業中に、適宜、参考文献・資料等を紹介する。
評価方法	評価は、授業への出席・受講態度と小レポート（50%）、本レポート又は試験（50%）で、総合的に評価する。
自己学習に関する指針	毎回の講義に配布する講義レジメ・資料で、復習すること。疑問点は、自ら、図書館の関係文献で調べるか、担当教員へ下記のメールで問い合わせて理解、解決すること
履修上の指導・留意点	授業中の疑問点や資料等で不明な点は、授業終了後の時間に質問、相談すること。オフィスアワーの時間を設定できないので、その他の質問や相談などは、次のメール・アドレスで受けつける。 nakano@edu.shimane-u.ac.jp

授業科目	日本国憲法						
担当教員	黒澤修一郎						
科目分類	共通基礎	授業時間	30	配当年次	2	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M1010100
免許資格 関連事項	<p>○中学校教諭(国語・英語)一種免許状</p> <p>○高等学校教諭(国語・英語)一種免許状</p>						

授業の概要	この授業のテーマは、憲法についての入門的な知識を習得することです。憲法は、国家の基本的なあり方―基本的人権の保障や、統治機構(国会、内閣、裁判所など)の制度構造など―を定めています。とりわけ、この授業では、実際の事件や社会問題を豊富に取りあげることを通じて、憲法に関する具体的な理解を獲得することを目指します。
授業の 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的人権の保障や統治のしくみについて、概要を理解することができる。 ・憲法に関連する実際の社会問題について、広く関心を持つことができる。 ・憲法問題について考えるための入門的な知識を習得することができる。
授業計画	<p>第1回：イントロダクション</p> <p>第2回：基本的人権</p> <p>第3回：個人の尊重と幸福追求権</p> <p>第4回：法の下での平等</p> <p>第5回：精神的自由権(1)</p> <p>第6回：精神的自由権(2)</p> <p>第7回：経済的自由権</p> <p>第8回：社会権</p> <p>第9回：基本的人権の重要問題</p> <p>第10回：立法権と国会</p> <p>第11回：行政権と内閣</p> <p>第12回：司法権・裁判所・違憲審査制</p> <p>第13回：平和主義</p> <p>第14回：統治機構論の重要問題</p> <p>第15回：まとめ</p> <p>定期試験</p>
テキスト	追って指示します。
参考文献	適宜紹介します。
評価方法	学期末の試験の成績によって評価します。
自己学習に 関する指針	予習の範囲については、毎週、指示します。
履修上の 指導・留意点	特になし

授業科目	人間と自然						
担当教員	松本一郎						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	1	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M1010110
免許資格 関連事項							

授業の概要	<p>[授業の目的・ねらい] 人間の様々な生産活動と自然現象との関係について基礎的な事項を幅広く学び、人間と自然との持続可能な共存・共生関係について考え、行動に移す事ができる素養（リテラシー）を身につけることを目的とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要] まず、宇宙と地球の誕生という自然歴史的な内容を学び、生命の誕生と進化発展を理解する。その上で、人類の誕生と人類が自然とどのように共存してきたのかを学び、人口の爆発的な増加と生物の絶滅・地球温暖化など、自然が置かれた様々な現状と課題を知る。そのような現状として、主に自然災害のメカニズムや減災・防災の知識及び行動に移すための観点を学ぶ。以上の学びを実験や観察を交えながら、個人やグループでのディスカッションを通して多様な見方・考え方の重要性を知る。それらをもとに、ESD やSDGs の考え方を参考に人類と自然の持続可能な共存・共生の在り方を考察する。</p>
授業の到達目標	<p>①地球の成り立ちや生物学について基礎的な知識を習得している。</p> <p>②人類の進化について基礎的な知識を習得し、人間の特性について説明することができる。</p> <p>③人類が自然と共存・共生していくのに何が重要なかを自ら考え、ESD やSDGs の考えをもとにその内容を自己の言葉で表現することができる。</p>
授業計画	<p>第1回 宇宙と地球の誕生と成り立ち[私たちはどこから来たのか、宇宙と地球の成り立ち] 第2回 地球の進化と生命の誕生(1) [気圏、水圏、岩石圏] 第3回 地球の進化と生命の誕生(2) [生命の誕生、進化、地球と生命の共進化] 第4回 冥王代、原生代、古生代、中生代と地球環境 [生物進化と地球環境、大量絶滅] 第5回 新生代と地球環境 [新生代と現在に繋がる地球環境] 第6回 生物進化のメカニズム [人類の誕生] 第7回 大陸と海洋の活動(1) [科学的な知見から地殻変動を学ぶ(火山および火山岩と深成岩)] 第8回 大陸と海洋の活動(2) [科学的な知見から地殻変動を学ぶ(地震、津波、気象現象)] 第9回 自然の恵み(1) [地下資源をはじめとするエネルギーの種類・性質を学ぶ] 第10回 自然の恵み(2) [生物多様性、生物ピラミッド] 第11回 人類史と自然環境の変化を考える(1) [文明の発達、工業化、Society1.0, 2.0] 第12回 人類史と自然環境の変化を考える(2) [文明の発達、工業化、Society3.0] 第13回 自然と共生する人類の活動を考える(1) [環境教育からESDへ] 第14回 自然と共生する人類の活動を考える(2) [ESDからSDGs] 第15回 持続可能な地球と人類の未来を目指して [SDGs, Society5.0] 定期試験 ●パワーポイントを用いた講義形式の授業を行うが、ビデオや新聞記事などの資料も交えて、できるだけ分かりやすい授業を目指す。</p>
テキスト	とくに使用しない。
参考文献	授業中に紹介します。
評価方法	<p>●単位認定は、定期試験(50%)、課題レポート(ミニッツ・ペーパー)(50%)によって総合的に評価する。</p> <p>●到達目標①および②は定期試験によって、到達目標③は授業参加と課題レポート(ミニッツ・ペーパー)によって、それぞれ評価する。</p> <p>●試験(記述問題)やレポートは、どこまで自己の言葉で書かれているかを評価する。</p>
自己学習に関する指針	

履修上の 指導・留意点	毎回の授業の終わりには10分程度の学びの振り返りの時間を設け、課題や本時の概要や疑問などをまとめるミニッツ・ペーパーを作成し提出する。
----------------	---

授業科目	脳科学と心						
担当教員	内山仁志						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	1	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M1010120
免許資格 関連事項							

授業の概要	<p>[授業の目的・ねらい] ヒトの神経系（脳）の構造と機能の概略を理解し、脳の構造や機能を可視化できる測定法を学修する。それを踏まえて「心」とは何かについて考える。また脳に関する迷信についてその現状を知り、問題点を見つけてわかりやすく説明できることを目的とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 思考、認知、記憶、情動、意思、行動などに関連する脳科学の知見を通じて、人間理解の可能性と脳科学が果たす役割について学ぶ。ヒトの神経系（脳）の構造と脳の機能局在について理解を深めることを目標とする。歴史的経緯を踏まえつつ臨床症例や研究知見を神経科学的手法（脳波・fMRI・TMS・PET など）とともに紹介する。また神経神話（脳に関する迷信）問題について、課題発見解決型学習（PBL）を通じて、その理論的根拠や妥当性を論理的に検討していき、巷に氾濫する誤った脳科学情報にきちんと対処できる知識を修得する。</p>
授業の到達目標	<p>(1) ヒトの神経系（脳）の構造と脳の機能の概略を説明できる (2) 神経科学的手法について説明できる (3) 神経神話（脳に関する迷信）問題について自身で課題を見つけて解決できる</p>
授業計画	<p>第1回 心の発達と脳科学 第2回 神経系の構造 第3回 神経系の発達 第4回 神経科学的手法と研究法 第5回 脳研究の最新トピックと神経神話問題、PBLのための課題の設定と振り分け 第6回 脳と嗅覚・視覚 第7回 脳と聴覚・味覚 第8回 脳と体性感覚・運動 第9回 脳と思考・意思・情動 第10回 脳と学習・記憶 第11回 脳と言語 第12回 脳と病気 第13回 PBL 発表と討議 1 第14回 PBL 発表と討議 2 第15回 PBL 発表と討議 3 定期試験</p>
テキスト	・テキストは使用せず、適宜プリント資料等を配布する。
参考文献	<p>・「発達科学ハンドブック 8 脳の発達科学」、榊原洋一他編、新曜社 ・「病気が見える vol.7 脳・神経」、医療情報科学研究所編、メディックメディア ・「脳ブームの迷信」、藤田一郎著、飛鳥新社</p>
評価方法	定期試験 60%、レポート（発表時のプレゼンテーション力を含む） 40%
自己学習に関する指針	
履修上の指導・留意点	

授業科目	生物と栄養						
担当教員	安藤彰朗						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	1	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M1010130
免許資格 関連事項							

授業の概要	<p>[授業の目的・ねらい] 私たちヒトも哺乳動物も「食べる」ことなしに生命・生活は成り立ちません。この講義では、哺乳類の一員としてのヒトにおける、食べ物とからだ、栄養素の役割、食べもと健康について理解を深めることを目的とします。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 生物（特にヒトを含む哺乳動物）のからだのつくりを中心に、生物個体から出発して、その内部構造（器官や細胞）へと展開するからだのしくみの基盤となる内容を学ぶ。引き続き、生物・生命のもう一つの特性である「栄養」や「代謝」について理解を進め、からだの構成成分と栄養素、生命維持や活動のエネルギー代謝と栄養素等、からだのしくみと栄養の視点から、食べ物が栄養に変わる旅（過程）を知るとともに、生物と栄養について理解を深める。そして、応用編として「人間（ヒト）と健康」に関わる諸課題についても考察する。</p>
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> ヒトや他の哺乳動物の基本的な内臓の構成、特に消化器系の臓器の名称と働きを説明できる。 栄養素の特徴および、からだの中での役割を説明できる。 ヒトについて食べ物とからだの関係、食べ物と健康の係りについて認識し、自身の生活を踏まえて、自分の考えを述べることができる。
授業計画	<p>第1回 「生物と栄養」の講義について、ヒトのからだの概要 第2回 ヒトの消化器系の全体像、口腔の話（口から始まる消化作用） 第3回 胃の話（主役は3つの細胞）・腸の話（絨毯のような内面） 第4回 胃と腸のビデオ視聴 第5回 いろいろな哺乳動物の歯について 第6回 食性が異なる哺乳動物は、どのような消化管を持っているか 第7回 糖質の消化・吸収、糖質の栄養 第8回 タンパク質の消化・吸収、タンパク質の栄養 第9回 脂質の消化・吸収、脂質の栄養 第10回 カルシウムの役割、骨と筋肉のビデオ視聴 第11回 エネルギー代謝について 第12回 あなた自身はどんな食事をしていますか 第13回 食事バランスガイドについて 第14回 食べ物と健康について 第15回 全体のまとめ 定期試験（試験あり）</p>
テキスト	テキストは特に用いません。必要に応じて毎回プリントを配布します。
参考文献	<ol style="list-style-type: none"> 「イラスト栄養学総論」城田知子ほか著、東京教学社、 「新版ヒトと自然」荒井秋晴ほか著、東京教学社、
評価方法	<p>試験は、消化器系や栄養素などについての知識を問う問題と講義で取り上げたテーマについての記述問題を課します。</p> <p>評価基準は、質問感想カードの提出 20%、課題レポートの提出 30%、試験 50%を考慮して総合的に評価します。</p>
自己学習に関する指針	特定のテキストは用いないので、授業中に適宜ノートを取る、配布資料の余白などにメモを取ることを勧めます。復習する際にそれらを役立てて欲しいと考えています。

履修上の 指導・留意点	科目名の通り、主として解剖生理学、生物学、化学、栄養学などに関連するいわゆる理系の内容や計算を含みます。また、臓器名、元素記号や化学式、馴染みのないカタカナの物質名なども沢山出てきます。

授業科目	環境の科学						
担当教員	高橋泰道						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	2	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M1010140
免許資格 関連事項							

授業の概要	<p>[授業の目的・ねらい] 地球の誕生から、生命の誕生、生物の進化など、地球の自然環境の歴史について理解すると共に、地球環境問題の現状を理解し、持続可能な社会の構築に向けて、どのように行動すべきかを考え、実践的態度を培うことをねらいとする。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 地球環境問題を理解するために必要な基礎知識として、地球の誕生から、生命の誕生、生物の進化が地球の自然環境とどのようにかかわってきたか、地球がどのように現在の自然環境を作り上げてきたかについて学ぶ。そして、身近な環境汚染から差しせまった地球温暖化の問題に至るさまざまな問題の本質と現状を理解した上で、環境問題を自らの課題としてとらえ、主体的に向き合い、持続可能な社会の構築に向けて、どのように行動すべきかを考え、実践的態度を培う。</p>
授業の到達目標	<p>①地球の誕生から、生命の誕生、生物の進化など、地球の自然環境の歴史について説明できる。</p> <p>②地球環境問題の現状について説明できる。</p> <p>③持続可能な社会の構築に向けて、どのように行動すべきかを考えることができる。</p>
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション、月面で遭難したら：テーマ問題について予想し、グループで話し合い、問題を解決する。</p> <p>第2回 太陽と地球、月：テーマ問題について予想し、グループで話し合い、問題を解決する。</p> <p>第3回 地球の誕生：テーマ問題について予想し、グループで話し合い、問題を解決する。</p> <p>第4回 地球の変動：テーマ問題について予想し、グループで話し合い、問題を解決する。</p> <p>第5回 生物の繁殖戦略：テーマ問題について予想し、グループで話し合い、問題を解決する。</p> <p>第6回 地球の大気：テーマ問題について予想し、グループで話し合い、問題を解決する。</p> <p>第7回 いま地球で何が起きているか：テーマ問題についてグループで調べ、まとめる。</p> <p>第8回 環境問題の実態 ① 地球温暖化：テーマ問題についてグループで調べ、まとめる。</p> <p>第9回 環境問題の実態 ② エネルギー問題：テーマ問題についてグループで調べ、まとめる。</p> <p>第10回 環境問題の実態 ③ 生物多様性・自然共生社会：テーマ問題についてグループで調べ、まとめる。</p> <p>第11回 環境問題の実態 ④ 地球環境問題：テーマ問題についてグループで調べ、まとめる。</p> <p>第12回 環境問題の実態 ⑤ 循環型社会、エネルギー・廃棄物：テーマ問題についてグループで調べ、まとめる。</p> <p>第13回 環境問題の実態 ⑥ 地域の環境問題：テーマ問題についてグループで調べ、まとめる。</p> <p>第14回 環境問題の実態 ⑦ 化学物質・震災関連・放射性物質：テーマ問題についてグループで調べ、まとめる。</p> <p>第15回 持続可能な社会に向けたアプローチ、まとめ：テーマ問題についてグループで調べ、まとめる。</p>
テキスト	特になし。適宜プリントを配布する。
参考文献	授業中に随時紹介する。
評価方法	<p>授業レポート等提出物(30%)</p> <p>発表資料・発表内容(30%)</p> <p>期末レポート(40%)</p>
自己学習に関する指針	配布資料、およびレジュメに記載された参考文献を読み、事前学修・事後学修に役立てる。
履修上の指導・留意点	授業中は、タブレットPC、或いはノートPC、スマートフォン等を使用し、双方向の授業を行います。質問は、その内容に応じて、授業時間中・オフィスアワー・e-mail に対応します。

授業科目	しまね地域共生学入門						
担当教員	島根県立大学教員						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	1	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	必修	単位数	2	授業コード	M6010110
免許資格 関連事項							

授業の概要	<p>この講義は、各学部・学科における専門分野を学習する前の段階において、島根県が数十年来直面している人口減少・少子高齢化・過疎化という地域の諸課題を様々な角度から論じる。そうした課題は、今後の日本の多くの地域において予期されるが、それぞれの主体の強みを生かした連携と協力を継続させるという、「共生」により解決しなければならない。本講義を通じて、地域課題への対応がいかに困難で複雑なものであるかを再認識し、複合的対応の重要性についての理解を深める。</p> <p>また、学問的見地においても、ひとつの学問領域から得られる知見のみで解決できるものではない。本講義では、特定の学問領域にとどまらず、複眼的に物事をとらえ分析することの重要性も学ぶ。</p> <p>これらの目的に照らし、さしあたり本講義では3キャンパスの教員がそれぞれの専門分野から島根県にかかわる諸課題についての解説を平易に行う。また、オムニバス講義ゆえに全体としての体系性が失われないよう、人々の人生における代表的なライフステージ(3段階)を共通で用いる。このことを通じて、島根県内の地域課題に関する基礎知識・周辺知識を習得する。</p> <p>本講義を履修したのち、自らの関心あるテーマについて仮説を立てて実証をしたり、地域に出て「実践する」ことが求められるが、その際に関心のあるテーマを自ら発見できるよう積極的な姿勢で受講してもらいたい。</p> <p>※本講義は、原則的に、講義中継システムを活用して3キャンパス同時の遠隔講義形式にて実施する。</p>
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・島根県の課題について理解し、日本全体の課題のなかでの位置づけを説明できる。 ・地域社会の諸課題の解決に向けて各主体が連携・協力する「共生」により解決にあたることや、自らも複数の学問領域の考え方を学ぶことの重要性について理解できる。 ・以降の学生生活を通じて自ら実践的に地域の諸課題に取り組むことの重要性を理解し、そのテーマを設定できる。
授業計画	<p>第1週 島根県立大学へようこそー開講にあたってー〔学長 清原正義・全学開講責任者〕</p> <p>第2週 地図とデータでみる島根県〔浜田キャンパス 林秀司〕</p> <p>第3週 なぜ島根県の出生率と女性の労働参加率が高いのか〔浜田キャンパス 藤原真砂〕</p> <p>第4週 人生100年時代の食育〔出雲キャンパス 名和田清子〕</p> <p>第5週 絵本をめぐる冒険～読み聞かせでつながる地域社会～〔松江キャンパス 岩田英作〕</p> <p>第6週 シティズンシップと公共哲学〔浜田キャンパス 松尾哲也〕</p> <p>第7週 がん患者に対する就労支援〔出雲キャンパス 森山美香〕</p> <p>第8週 社会的養護と島根県の里親〔松江キャンパス 藤原映久〕</p> <p>第9週 高齢者における地域子育て支援〔松江キャンパス 前林英貴〕</p> <p>第10週 地域で暮らす高齢者の介護予防〔出雲キャンパス 林健司〕</p> <p>第11週 中小企業における事業承継問題の現状と対策〔浜田キャンパス 久保田典男〕</p> <p>第12週 島根県の政策展開(仮題)〔外部講師〕</p> <p>第13週 地域課題への実践的取組(仮題)〔外部講師〕</p> <p>第14週 まとめ(仮題)〔全学開講責任者〕</p> <p>第15週 学部・学科の学びに向けて〔学部長または副学長〕</p>
テキスト	各回週の担当教員が指定することがある。
参考文献	各回週の担当教員が紹介する。
評価方法	授業に出席することを前提とし、授業への取り組み姿勢、各週の授業で実施する小テストの結果を総合的に判断して評価を行う。
自己学習に関する指針	
履修上の指導・留意点	本講義は地域の抱える課題について包括的に概論する講義ではあるが、本講義のみでは大学生が学ぶべき内容を完全にマスターできるわけではない。本講義は1年生を標準履修年次としており、どちらかと

例えば、これからの修学期間で地域課題への対応に取り組むにあたり、必要となる予備知識や一般知識の習得を目指す、いわば入門科目としての位置づけである。したがって、受講したのち、より専門的な見地から詳細な議論を行う諸科目の履修により補完することが望ましい。具体的には、地域志向科目の履修がひとつの目安となる。

また、本講義は企業や行

授業科目	しまね文化論						
担当教員	工藤泰子						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	1	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	必修	単位数	2	授業コード	M1010160
免許資格 関連事項							

授業の概要	<p>本科目は、松江城、出雲大社、石見銀山など、島根県が有する豊かな特色ある地域文化・地域資源について、基礎的な知識を修得し、しまねの地域資源の価値と、それらに誇りを持って未来へ継承することの意義を理解することを目的とする。授業はオムニバス形式で行い、各テーマにふさわしい専門家や実践者による講義を通して、島根県における伝統文化の歴史的背景や文化的価値、文化を伝承する上での課題や未来へ向けた取組みなどを学習する。さらに、学外見学会を実施することで学習内容の理解を深める。</p>
授業の到達目標	<p>出雲、石見、隠岐が有する様々な文化について理解し、それぞれの特徴や歴史的背景を説明できるようになる。</p>
授業計画	<p>第1回 ガイダンス (人間文化学部教員) 第2回 神々の国しまね(1) (出雲大社) 外部講師: 千家和比古 氏 (出雲大社権宮司) 第3回 神々の国しまね(2) (神話) 外部講師: 錦田剛志 氏 (万九千神社宮司) 第4回 しまねの日本遺産 (たたら製鉄) 外部講師: 井上裕司氏 (株式会社田部たたら事業部次長) 第5回 しまねの地質資源 (隠岐世界ジオパーク) 外部講師: 野辺一寛 氏 (隠岐の島町役場課長) 第6回 しまねの世界遺産 (石見銀山) 外部講師: 仲野義文 氏 (石見銀山資料館館長) 第7回 しまねの自然 外部講師: 中村唯史 氏 (島根県立三瓶自然館) 第8回 フィールドワーク事前学習 (人間文化学部教員) 第9回 フィールドワーク (石見銀山) 第10回 しまねの食文化(1) (松江の茶文化) 外部講師: 中村寿男 氏 (中村茶舗代表取締役) 第11回 しまねの食文化(2) (次世代への継承) 外部講師: 景山直観 氏 (一文字家社長) 第12回 しまねの国宝 (松江城) 外部講師: 卜部吉博 氏 (元松江市松江城調査研究室長) 第13回 しまねの伝統芸能 (神楽) 外部講師: 藤原宏夫 氏 (島根県教育庁文化財課) 第14回 しまねの文化の魅力 第15回 しまねの文化の魅力を考える—グループワーク、学生発表 ※外部講師招聘のため、順番が入れ替わる場合がある。</p>
テキスト	適宜プリントを配布する。
参考文献	
評価方法	各回の小テストの結果、課題提出、コメントシート、発表など、授業への取組み状況を総合的に判断して評価を行う。
自己学習に関する指針	
履修上の指導・留意点	11月にフィールドワーク実施予定。

授業科目	しまねボランティア研修						
担当教員	県立青少年の家 社会教育主事						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	1・2	配当期	通年
授業形態	講義・演習	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M1010170
免許資格 関連事項							

授業の概要	ボランティア活動を始めようとする学生に、県立青少年の家における体験活動プログラムを提供することにより、ボランティアの役割を体得し、他者と関わりながら主体的に活動することのできる人間になることを目指す。そのためにボランティア活動を体験し、ボランティア活動の意義及びボランティアの役割を理解したり、体験活動をしながら場に応じて必要な支援について学修したりする。
授業の 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. ボランティア活動の意義及びボランティアの役割を理解できる。 2. 他者との関わり方を考え、協力して活動できる。 3. 体験学習について理解し、場に応じて適切な支援ができる。
授業計画	<p>第1回 事前学習…<4月16日18:10~19:40 1コマ：県立大学松江キャンパス> (青少年の家と主催事業についての理解・授業スケジュールの理解)</p> <p>第2回 実習①「ボランティア(体験活動支援者)養成講座」…<5月30日~31日：県立青少年の家> ・講義(ボランティア活動について・アイスブレイク・グループワーク・安全講習) ・演習(青少年の家のプログラム体験・振り返り)</p> <p>第3回 実習②「ボランティア(体験活動支援者)実習」…<7月~12月で1つを選択：県立青少年の家> 選択事業の例 ・サマーチャレンジ(小6~高1対象) …8月 ・キッズチャレンジ(小4~小6対象) …7月、10月(2回) ・キッズチャレンジ(小1~小3対象) …9月、11月(2回) ・にんにんチャレンジ(年長対象) …11月~12月(2回) ※選択可能な事業の詳細については事前学習において発表する。</p> <p>第4回 事後学習<1月23日AM 3コマ：県立大学松江キャンパス> ・グループワークによるシェア及びグループ発表</p>
テキスト	上記第2回~第3回については、参加者ノート、スタッフノート等を配布する。
参考文献	
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・実習における積極性、参加態度、ならびに、発表の内容、提出課題等で、総合的に判断する。 ・本科目の性質上、1回でも欠席した場合は成績評価の対象外とする。
自己学習に 関する指針	第2回の養成講座受講後、第3回のボランティア実習に向けて、青少年の家ホームページから前年度や本年度実施された主催事業の様子について関心をもって、予習をしておくことが望ましい。
履修上の 指導・留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・実習①での施設使用料、食費は各自負担をする。(例年：約2,000円) ・定員は36名とする。 ・履修希望者は、4月13日までに登録の上、第1回事前学習(4/16)に必ず出席すること。 (希望者が定員を上回った場合は、抽選・その他の方法で選抜を行う)

授業科目	健康スポーツ概論						
担当教員	岸本強						
科目分類	基礎科目	授業時間	15	配当年次	1	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M1010180
免許資格 関連事項	<p>○中学校教諭(国語・英語)一種免許状《教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目》 ・体育</p> <p>○高等学校教諭(国語・英語)一種免許状《教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目》 ・体育</p>						

授業の概要	<p>競技スポーツや健康の保持・増進のためのスポーツ、スポーツを活用した健康生活について学ぶとともに、大学生として心得ておくべきスポーツ政策についての概要や現代的諸問題について学修する。また、スポーツ活動を通じたパーソナリティー形成や社会性の発達についての知識を修得し、スポーツ活動によってもたらされるプラス面の効果や留意すべきことについて正しく理解し、競技スポーツ・健康スポーツ・生涯スポーツの見方・考え方についての学修を深める。</p>
授業の到達目標	<p>(1)健康スポーツについて基礎的な知識を修得することができる。</p> <p>(2)現代的スポーツ事情、スポーツ諸課題について論述することができる。</p>
授業計画	<p>第1回 日本のスポーツ政策と現状(国、地方自治体のスポーツ推進計画)</p> <p>第2回 スポーツとは? スポーツの高度化、大衆化について</p> <p>第3回 競技スポーツと健康志向スポーツについて</p> <p>第4回 スポーツのパーソナリティー形成と二面性について</p> <p>第5回 スポーツ集団への関わり方、チームワークのメカニズムと形成の考え方</p> <p>第6回 スポーツのための食と液体補給</p> <p>第7回 運動・休養・栄養と生活リズム</p> <p>第8回 救急処置と救急蘇生法、まとめ 定期試験</p>
テキスト	なし
参考文献	毎回、プリント資料を配付する。
評価方法	毎回クイズ(小テスト)=30% 筆記試験=70%
自己学習に関する指針	配付資料を再読し、復習に役立てる。
履修上の指導・留意点	<p>毎回、授業終わりに小テストを行う。</p> <p>なお、本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、教育機関(中学校教諭)での勤務経験を生かして、教員免許取得に関する授業を展開する。</p>

授業科目	健康スポーツ I						
担当教員	岸本強						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	1	配当期	春学期
授業形態	実技	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M1010190
免許資格 関連事項	○中学校教諭(国語・英語)一種免許状《教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目》 ・体育 ○高等学校教諭(国語・英語)一種免許状《教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目》 ・体育						

授業の概要	健康スポーツ I では、各種身体運動の方法を実践学習し、健康の保持増進と体力の向上、運動の意味や効果の理解を図りながら、運動することへの自覚を一層促進する。また、スポーツ活動を通して、運動や運動技術のみにとどまらず、集団のなかの一員としての役割等から協調性や社会性を身に付ける。内容については、準備運動(ストレッチを含む)の仕方、集団スポーツの学習、個人スポーツの学習からルール・技術・ゲームの仕方を学修し、生涯スポーツの取り組みを見据えた授業とする。
授業の到達目標	(1)生涯スポーツの観点から個人種目やチームスポーツに取り組み、多種目の技術・技能を身につけることができる。 (2)主体的に学ぶ姿勢を身につけ、受講者で協力してゲームを運営することができる。
授業計画	第1回 オリエンテーション、準備運動の方法及びストレッチング、リズム運動 第2回 スポーツ種別特性の理解と実践・ソフトバレーボールの基礎・基本 第3回 スポーツ種別特性の理解と実践・ソフトバレーボールの応用とミニゲーム 第4回 スポーツ種別特性の理解と実践・ソフトバレーボールのゲーム(リンク式) 第5回 スポーツ種別特性の理解と実践・ソフトバレーボールのゲーム(トーナメント式) 第6回 スポーツ種別特性の理解と実践・バドミントンの基礎・基本 第7回 スポーツ種別特性の理解と実践・バドミントンの応用とミニゲーム 第8回 スポーツ種別特性の理解と実践・バドミントンのゲーム(シングルス) 第9回 スポーツ種別特性の理解と実践・バドミントンのゲーム(ダブルス) 第10回 スポーツ種別特性の理解と実践・卓球の基礎・基本 第11回 スポーツ種別特性の理解と実践・卓球の応用とミニゲーム 第12回 スポーツ種別特性の理解と実践・卓球のゲーム(シングルス) 第13回 スポーツ種別特性の理解と実践・卓球のゲーム(ダブルス) 第14回 スポーツ種別特性の理解と実践・種目選択でのゲーム(リンク式) 第15回 スポーツ種別特性の理解と実践・種目選択でのゲーム(トーナメント式)
テキスト	なし
参考文献	必要に応じて資料を配付する。
評価方法	技術・技能 30%、実践記録 20%、まとめレポート 50%
自己学習に関する指針	授業外においても取り込むことが好ましい。
履修上の指導・留意点	運動服の指定はないが、運動に適した服装・靴を着用すること。 なお、本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、教育機関(中学校教諭)での勤務経験を生かして、教員免許取得に関する授業を展開する。

授業科目	健康スポーツⅡ						
担当教員	岸本強						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	1	配当期	秋学期
授業形態	実技	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M1010200
免許資格 関連事項							

授業の概要	健康スポーツⅡでは、身体組成測定器や血圧・脈拍測定器、エアロバイク（体力・最大酸素摂取量測定可能）など、各種身体及び身体機能測定機器で受講者が自ら計測した各々のデータを蓄積管理し、一人ひとりがこのデータを活用して自らに合った運動（機器を用いたトレーニング・エクササイズ・各種スポーツ）をプログラムしていく方法を学修する。授業ではスムーズな展開を図るため、取り組む内容毎にグループで活動を展開する。このグループ化は2回行い、複数（異種）の取り組みを経験する。
授業の到達目標	(1) 主体的・計画的に測定機器を使いデータを管理することができる。 (2) 測定データを活用し、機器を用いたトレーニング、エクササイズ、スポーツに取り組むことのできる運動プログラムを確立することができる。
授業計画	第1回 オリエンテーション及び各種測定 第2回 測定と運動実践（機器を用いたトレーニング・エクササイズ・各種スポーツ）試行 第3回 測定と運動実践（機器を用いたトレーニング・エクササイズ・各種スポーツ）定着 第4回 測定とグループ化①、運動実践（機器を用いたトレーニング・エクササイズ・各種スポーツ） 第5回 測定と運動実践（機器を用いたトレーニング・エクササイズ・チームスポーツ）グループ試行 第6回 測定と運動実践（機器を用いたトレーニング・エクササイズ・チームスポーツ）グループ定着 第7回 測定と運動実践（機器を用いたトレーニング・エクササイズ・チームスポーツ）グループ応用 第8回 測定と運動実践（機器を用いたトレーニング・エクササイズ・チームスポーツ）グループ発展 第9回 これまでのデータ処理と中間評価 第10回 測定とグループ化②、運動実践（機器を用いたトレーニング・エクササイズ・各種スポーツ） 第11回 測定と運動実践（機器を用いたトレーニング・エクササイズ・個人スポーツ）グループ試行 第12回 測定と運動実践（機器を用いたトレーニング・エクササイズ・個人スポーツ）グループ定着 第13回 測定と運動実践（機器を用いたトレーニング・エクササイズ・個人スポーツ）グループ応用 第14回 測定と運動実践（機器を用いたトレーニング・エクササイズ・個人スポーツ）グループ発展 第15回 データのまとめ、授業のまとめ
テキスト	なし
参考文献	必要に応じて資料を配付する
評価方法	実践記録 50%、まとめレポート 50%
自己学習に関する指針	授業外においても取り込むことが好ましい。
履修上の指導・留意点	運動服の指定はないが、運動に適した服装・靴を着用すること。 なお、本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、教育機関（中学校教諭）での勤務経験を生かして、教員免許取得に関する授業を展開する。

授業科目	健康スポーツⅢ						
担当教員	山本ユミ						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	2	配当期	春学期
授業形態	実技	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M1010210
免許資格 関連事項							

授業の概要	ダンスの基礎的な身体の使い方を学び、思いきり身体を動かすこと、動きを創作する楽しさ、表現を追求する面白さ、人に伝える喜びなどダンスの醍醐味を身体で経験する。発表を通して、踊る・創る・観るという総合的な視点でダンスを学習する。
授業の到達目標	(1)ダンスの基礎的な身体の使い方を学び、創る、踊る、観るという総合的な視点でダンスの技能を身に付けることができる。 (2)共同作業を通して、互いの表現を認め合い、自己表現力を高め、積極的に取り組む姿勢を身に付けることができる。
授業計画	第1回 ガイダンス、ダンスの種類と特徴 第2回 ダンスの実践レベル1・リズム 第3回 ダンスの実践レベル1・ステップ 第4回 ダンスの実践レベル1・コンビネーション(簡単な振付) 第5回 ダンスの実践レベル1・レベル1のまとめのダンス 第6回 ダンスの実践レベル2・リズム&ステップ 第7回 ダンスの実践レベル2・コンビネーション(振付基礎) 第8回 ダンスの実践レベル2・コンビネーション(振付応用) 第9回 ダンスの実践レベル2・レベル2のまとめのダンス 第10回 ダンスの実践レベル3・リズム&ステップ 第11回 ダンスの実践レベル3・リズム&ステップ&コンビネーション(振付基礎) 第12回 ダンスの実践レベル3・リズム&ステップ&コンビネーション(振付応用) 第13回 ダンスの実践レベル3・フォーメーション(グループ創作ダンス基礎パターン) 第14回 ダンスの実践レベル3・フォーメーション(グループ創作ダンス応用パターン) 第15回 まとめダンス発表会
テキスト	なし
参考文献	必要に応じて資料を配布する。
評価方法	技術・技能 30%, 実践記録 20%, まとめレポート 50%
自己学習に関する指針	
履修上の指導・留意点	

授業科目	基礎中国語						
担当教員	鳥谷聡子						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	1	配当期	春学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M1010220
免許資格 関連事項							

授業の概要	<p>中国には56の民族があり、広東語や上海語など、実際には多種の言語や方言が使われている中で、現在中国の標準語になっている“汉语の普通话”を学ぶ。ピンイン、四声、発音から始まり、テキストの会話や作文の練習を通して中国語の基礎を学習する。中国語は漢字を使う言語のため、同じく漢字を使う日本人には親しみを感じる言語ではあるが、文化が違えばその発想も違うため、日本語との違いを通してその文化の違いを感じ取ってもらう。また、中国の音楽や中国人から見た日本の文化に対するエッセイなどに触れて、中国語を通して中国への理解を深めることを目的とする。</p>
授業の到達目標	<p>①ピンイン表記の中国語が読める。 ②テキスト内の単語と文法を覚え、それを使って作文や簡単な会話ができる。 ③中国語検定試験準4級レベルを目指す。</p>
授業計画	<p>第1回 中国語ウォーミングアップ、発音・声調・簡体字 第2回 人称代名詞、“是”の文 第3回 指示代名詞(1)、疑問詞疑問文 第4回 “的”の用法(1)、副詞 第5回 動詞の文 第6回 「所有」を表す“有”、省略疑問の“呢” 第7回 量詞、指示代名詞(2) 第8回 形容詞の文、“几”と“多少” 第9回 数字 第10回 日付・時刻を表す語、「動作の時点」を言う表現 第11回 「完了」を表す“了” 第12回 「所在」を表す“在”、助動詞(1)“想” 第13回 介詞(1)“在”・“离”、「存在」を表す“有” 第14回 反復疑問文 第15回 総まとめ、会話テスト 定期試験</p>
テキスト	最新2訂版「中国語はじめの一步」白水社
参考文献	適宜プリント配布 中日辞典と日中辞典(電子辞書だと便利)
評価方法	期末試験(60点)会話テスト(30点)、残り10点は授業への取り組みと出席状況を総合して評価します。
自己学習に関する指針	テキストを何度も繰り返し音読すること。その際、発音と四声に注意して、大きな声で読むことが大事。文字や文章も書いてみること。
履修上の指導・留意点	<p>質問は授業時間中と授業の前後で対応します。 受講者は、前から詰めて着席してください。 なお、本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、中国、シンガポールでの就労経験や、中国の中学校での日本語教師の経験を生かして、現場で話されていた生きた中国語や文化、体験を伝えて中国語と中国への理解を深める授業を展開する。</p>

授業科目	中国語						
担当教員	鳥谷聡子						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	1	配当期	秋学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M1010230
免許資格 関連事項							

授業の概要	<p>「基礎中国語」に引続き、中国語(汉语)の基礎を学ぶ。テキストの会話や作文の練習を通して、中国語の文法を学習する。また、中国の音楽や文化に触れるだけでなく、日本の文化を中国語で説明することにもチャレンジする。今後中国人に限らず、台湾やシンガポールなど、多くの中華圏の観光客が日本に来ることが期待されるので、中国語を使って日本、特に島根県や山陰地域の観光地の説明を、観光パンフレット等を利用して学び、その学習で得た中国語で日本や山陰地域の魅力を伝え、相互理解を深めることを目的とする。</p>
授業の到達目標	<p>①ピンイン表記無しで、簡単な中国語が読める。 ②テキスト内の単語と文法を覚え、それを使って作文や簡単な日常会話ができる。 ③中国語で自己紹介ができる。 ④中国語検定試験準4級以上のレベルを目指す。</p>
授業計画	<p>第1回 中国語で自己紹介、前期の復習、中国語検定試験準4級の説明 第2回 「時間量」を表す語、試験対策(1) 第3回 助動詞(2)“得”、試験対策(2) 第4回 介詞(2)“从”、試験対策(3) 第5回 「過去の経験」を表す“过”、試験対策(4) 第6回 “是…的”の文、試験対策(5) 第7回 介詞(3)“跟”・“给”、試験対策(6) 第8回 試験対策まとめ 第9回 助動詞(3)“能”・“会” 第10回 「動作の様態」を言う表現、動詞の重ね型 第11回 「動作の進行」を表す“在…呢”、「…しに来る・…しに行く」の表し方 第12回 選択疑問の“还是”、目的語を文頭に出す表現 第13回 「比較」の表現、“的”の用法(2) 第14回 2つの目的語をとる動詞、目的語が主述句のとき 第15回 総まとめ、会話テスト 定期試験</p>
テキスト	最新2訂版「中国語はじめの一步」白水社
参考文献	適宜プリント配布 中日辞典と日中辞典(電子辞書だと便利)
評価方法	期末試験(60点)会話テスト(30点)、残り10点は授業への取り組みと出席状況を総合して評価します。
自己学習に関する指針	テキストを何度も繰り返し音読すること。その際、発音と四声に注意して、大きな声で読むことが大事。文字や文章も書いてみること。
履修上の指導・留意点	<p>質問は授業時間中と授業の前後で対応します。 受講者は、前から詰めて着席してください。 なお、本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、中国、シンガポールでの就労経験や、中国の中学校での日本語教師の経験を生かして、現場で話されていた生きた中国語や文化、体験を伝えて中国語と中国への理解を深める授業を展開する。</p>

授業科目	基礎韓国語						
担当教員	崔貞美						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	1	配当期	春学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M1010240
免許資格 関連事項							

授業の概要	基礎的な韓国語を「読む」「聴く」「話す」というバランスを考えながら身に付けていきます。また、言語を学ぶということは、その背景にある文化を理解することも必要です。そこで歴史、風習にも折々触れていきます。
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ハングル（母音、子音、パッチム）を読めるようにします。 ・簡単な日常会話を韓国語で表現できるようにします。
授業計画	<p>第1回 ハングルの特徴、文字の仕組み（教室用語）</p> <p>第2回 文字と発音1 基本母音、基本子音（平音9コ）、簡単なあいさつ①</p> <p>第3回 文字と発音2 基本子音（激音5コ、濃音5コ）、簡単なあいさつ②</p> <p>第4回 文字と発音3 二重母音（11コ）、簡単なあいさつ③</p> <p>第5回 文字と発音4 パッチム、2文字パッチム、発音のルール</p> <p>第6回 第1課《私はクマモトマキです。》（～は）（～です）（～ではありません）（～と申します）</p> <p>第7回 第1課《私はクマモトマキです。》○グループ練習、韓国人の名字</p> <p>第8回 第2課《これは何ですか？》（指示代名詞）（疑問詞）（～も）</p> <p>第9回 第2課《これは何ですか？》○グループ練習、家族の呼称</p> <p>第10回 第3課《いつありますか？》（～が）（～に）（～ます、～です）（あります、います／ありません、いません）</p> <p>第11回 第3課《いつありますか？》○グループ練習、韓国料理</p> <p>第12回 第4課《誰の歌が好きですか？》（～が好きだ、～を好む）（～しない）（～と）（～を）</p> <p>第13回 第4課《誰の歌が好きですか？》○グループ練習、体の部位</p> <p>第14回 復習（文字と発音のまとめ）、ハングルとひらがなの対照</p> <p>第15回 会話（自己紹介）</p> <p>定期試験（会話も含む）</p>
テキスト	グループで楽しく学ぼう！韓国語（朝日出版社）朴美子他 定価2,500円
参考文献	授業において適宜紹介します。※プリント配布
評価方法	前期試験60点、会話テスト30点、小テスト、課題提出、出席状況で10点、総合100点満点で評価します。
自己学習に関する指針	復習することが上達の近道です。特に発音の練習は、声をしっかり出して繰り返しやるのが大切です。
履修上の指導・留意点	欠席が6回になると原則試験は受けられません（但し、公欠の場合は事前に公欠届を提出すること）。

授業科目	韓国語						
担当教員	崔貞美						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	1	配当期	秋学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M1010250
免許資格 関連事項							

授業の概要	基礎韓国語の授業を終了していることを前提に授業を行います。「語彙と表現」「文型練習」「会話練習」の3つの学習内容で授業を進めます。
授業の 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ハングル（文章）を読めるようにします。 ・様々な場面での日常会話ができるようにします。
授業計画	<p>第1回 第5課《誕生日はいつですか?》、漢数詞、(~です)</p> <p>第2回 第5課《誕生日はいつですか?》○グループ練習、辞書における子音、母音の配列</p> <p>第3回 第6課《郵便局とコーヒーショップがあります》、位置、(~します)</p> <p>第4回 第6課《郵便局とコーヒーショップがあります》○グループ練習、韓国の教育制度</p> <p>第5回 第7課《3個1万ウォンです》、固有数詞、副詞</p> <p>第6回 第7課《3個1万ウォンです》○グループ練習</p> <p>第7回 第8課《韓国語の授業は何曜日ですか》、時間と曜日、時刻</p> <p>第8回 第8課《韓国語の授業は何曜日ですか》(~から~まで)、(~だが、~だけど)○グループ練習</p> <p>第9回 年賀状作成</p> <p>第10回 第9課《週末に何をしますか》、過去形</p> <p>第11回 第9課《週末に何をしますか》○グループ練習、(~で)</p> <p>第12回 第10課《週末に映画を見にいきましょうか》</p> <p>第13回 第10課《週末に映画を見にいきましょうか》○グループ練習、会話文作成①</p> <p>第14回 会話文作成②</p> <p>第15回 後期のまとめ</p> <p>定期試験</p>
テキスト	グループで楽しく学ぼう！韓国語（朝日出版社）朴美子他 定価2,500円
参考文献	授業において適宜紹介します。※プリント配布
評価方法	期末試験60点、会話テスト30点、小テスト、課題提出、出席状況等で10点、総合100点満点で評価します。
自己学習に 関する指針	学習内容をチェックして、未修のところは復習を通して自律的に学習していくことが大切です。
履修上の 指導・留意点	欠席が6回になると原則試験を受けられません（但し、公欠の場合は事前に公欠届を提出すること）。

授業科目	基礎タイ語						
担当教員	増原善之						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	1	配当期	春学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M1010260
免許資格 関連事項							

授業の概要	<p>初学者を対象として、タイ語の基礎を身に付けることを目標とする。タイ語特有の文字とイントネーションは日本人にはなじみがなく難しく感じられるが、子音字と母音符号の発音と書き方、声調規則を段階的・体系的に学び、繰り返し練習をすれば、誰にでも習得が可能である。授業では、可能な限り発音と書き方の練習に時間を割き、知識の定着を図りたい。ただし、文字と発音の練習ばかりでは飽きてしまうので、これらと並行して日常会話で使われる平易な表現や基本単語も学習する予定である。</p>
授業の到達目標	<p>(1) 子音字と母音符号のしくみを理解し、正しく発音できる。 (2) 基本的な単語を読んだり書いたりできる。 (3) 声調規則にしたがって、正しいイントネーションで発音できる。</p>
授業計画	<p>第1回 ガイダンス 第2回 子音字と高・中・低子音字の区別 第3回 高子音字と低子音字 (1) 基本的な子音字 第4回 高子音字と低子音字 (2) 基本的な子音字 (続き) 第5回 高子音字と低子音字 (3) 低子音字の高子音字化 第6回 中子音字と無気音・有気音の区別 第7回 母音符号 (1) 基本的な母音 第8回 母音符号 (2) 基本的な母音 (続き) 第9回 母音符号 (3) 二重母音とその他の母音 第10回 末子音 第11回 声調規則 (1) 高子音字と声調記号 第12回 声調規則 (2) 低子音字と声調記号 第13回 声調規則 (3) 中子音字と声調記号 第14回 声調規則 (4) 末子音による声調の変化 第15回 まとめ</p>
テキスト	適宜プリントを配布する。
参考文献	必要に応じて紹介する。
評価方法	期末試験 (40%)、小テスト (40%)、出席状況および授業への取り組み (20%) に基づいて総合的に評価する。
自己学習に関する指針	・ 毎回、宿題を出すので、しっかり復習をしてほしい。
履修上の指導・留意点	

授業科目	タイ語						
担当教員	増原善之						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	1	配当期	秋学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M1010270
免許資格 関連事項							

授業の概要	「基礎タイ語」の既履修者を対象として、会話・コミュニケーション力の向上を目標とする。授業では基礎的な文法や単語の意味を理解するだけでなく、音声教材を利用しながら会話練習を繰り返すことによって「使えるタイ語」が身につくようにしたい。平易な内容であればタイの人びととなんとか意思疎通ができるというレベルを目指している。語学の学習に加え、動画等の視聴を通してタイ語の生きた表現に触れながら、タイの社会や文化に対する関心を高めていきたい。
授業の到達目標	(1) 基礎的な文法が理解できる。 (2) 平易な文を読んだり書いたりできるようになる。 (3) 簡単な日常会話レベルのタイ語が身につく。
授業計画	第1回 「基礎タイ語」の復習 第2回 こんにちは 第3回 お名前は何かですか？ 第4回 あなたは大学生ですか？ 第5回 お仕事は何かですか？ 第6回 タイ語がとても上手ですね 第7回 これは何かですか？ 第8回 どのように行けばいいですか？ 第9回 この電車はチャトゥチャックに行きますか？ 第10回 どこにいます（あります）か？ 第11回 どこに行って来ましたか？ 第12回 どのように売りますか？ 第13回 何時ですか？ 第14回 何曜日に生まれましたか？ 第15回 まとめ
テキスト	適宜プリントを配布する。
参考文献	必要に応じて紹介する。
評価方法	期末試験（40%）、小テスト（40%）、出席状況および授業への取り組み（20%）に基づいて総合的に評価する。
自己学習に関する指針	・ 毎回、宿題を出すので、しっかり復習をしてほしい。
履修上の指導・留意点	・ 本科目は「基礎タイ語」の既履修者または初歩的なタイ語（文字の読み書きができる程度）を学んだ経験のある者を対象としている。

授業科目	基礎インドネシア語						
担当教員	塩谷もも						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	1	配当期	春学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M1010280
免許資格 関連事項							

授業の概要	<p>インドネシア語の初学者を対象とし、インドネシア語の基礎を身に付けることを目標とする。教科書に基づいて段階的に文法を学習しながら基本的な単語を修得していく。特に、日常会話について、インドネシア語でコミュニケーションがとれるようになることを目指し、発音練習や会話練習を積極的に行う。また、語学にあわせて、インドネシアの生活習慣などについても映像資料等を用いながら解説し、その内容を会話表現等に結びつけて解説を行なう。</p>
授業の到達目標	<p>(1) インドネシア語の発音を学び、文章を見て音読できるようになる。 (2) 基礎となる単語・文法を身につけ、自己紹介や簡単な会話をできるようになる。 (3) 語学とあわせて、インドネシアの文化や生活習慣について、理解できるようになる。</p>
授業計画	<p>第1回 インドネシア語の特徴と発音 第2回 1. 指示代名詞 第3回 2. あいさつ・3. 名詞の否定詞 第4回 4. 人称代名詞 第5回 5. 場所を示す前置詞 第6回 6. 動詞・形容詞の否定詞 第7回 1-6課の復習・まとめ 第8回 7. 疑問詞のつかない疑問文 第9回 8. 限定形容詞・所有格 第10回 9. 助動詞・語順 第11回 10. 時制 第12回 7-10課の復習・まとめ 第13回 11. 数字 第14回 12. 日付・曜日 第15回 13. 時間</p>
テキスト	舟田京子 2004 『やさしい初歩のインドネシア語』 南雲堂
参考文献	降幡正志 2014 『インドネシア語のしくみ』 白水社 村井 吉敬・佐伯 奈津子 (編) 2013 『現代インドネシアを知るための60章』 明石書店
評価方法	小テスト 40% 期末試験 60%
自己学習に関する指針	<p>(1) 基礎となる単語をしっかりと覚える。 (2) 新しい文法事項については、練習問題などを通じて身に付くよう努力する。</p>
履修上の指導・留意点	<p>(1) 積み上げが大事なので、単語と文法について、毎週しっかりと授業時間外にも復習すること。 (2) 出された課題は、必ず済ませてくること。</p>

授業科目	インドネシア語						
担当教員	塩谷もも						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	1	配当期	秋学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M1010290
免許資格 関連事項							

授業の概要	「インドネシア語基礎」の受講者を対象とし、インドネシア語で簡単な会話ができるようになることを目標とする。教科書に基づき文法を学習しながら、接辞についても学んでいく。インドネシア語でコミュニケーションできるようになるため、「読む」「書く」「聞く」「話す」力を総合的に身に付けていく。また、語学にあわせてインドネシアの生活習慣などについても、映像資料等を用いながら解説し、語学への関心を深めつつ日常会話で使える表現を学習する。
授業の到達目標	(1) 接辞を身に付けることで辞書が引けて、簡単な文章を読むことができるようになる。 (2) 旅行の際に必要な基本的な表現を身につけ、活用できるようになる。 (3) 簡単な会話がインドネシア語でできるようになる。
授業計画	第1回 14. 疑問詞 第2回 15. 関係代名詞 第3回 16. 所有を表す語 第4回 14-16 課の復習・まとめ 第5回 21. 複数形・22. 副詞 第6回 23. 原級・比較級・最上級 第7回 24. 単純動詞・ber 動詞 第8回 25. me 動詞 第9回 21-25 課の復習・まとめ 第10回 26. 命令形 第11回 27. 受動態 第12回 28. me-kan 動詞 第13回 29. me-i 動詞 第14回 memper 動詞 第15回 接頭辞・接尾辞
テキスト	舟田京子 2004 『やさしい初歩のインドネシア語』 南雲堂
参考文献	降幡正志 2014 『インドネシア語のしくみ』 白水社 村井 吉敬・佐伯 奈津子 (編) 2013 『現代インドネシアを知るための60章』 明石書店
評価方法	小テスト 40% 期末試験 60%
自己学習に関する指針	(1) 基礎となる単語をしっかりと覚える。 (2) 新しい文法事項については、練習問題などを通じて身に付くよう努力する。
履修上の指導・留意点	(1) 積み上げが大事なので、単語と文法について、毎週しっかりと授業時間外にも復習すること。 (2) 出された課題は、必ず済ませてくること。